

# 小果樹類遺伝資源の収集と 特性に関する研究

小林 幹夫(園芸短期大学)

## 1. 研究目的

近年、小果樹類への関心は急速に高まっており、果実の利用は日常生活に定着しつつある。現在利用されている果実の多くは輸入によるが、一方では欧米からの導入品種の栽培も各地で普及・拡大している。それに伴い、種類・品種名が混乱していたり、必ずしも適切な種類・品種が導入されていない場合も多く、地域の気象や、消費者の要求、利用条件に適した種類・品種の選定が望まれる。また、その利用の定着を図る場合、わが国と欧米の食文化・食生活の違いから、生果および加工利用の両面から見た特性の調査が必要である。

本学は、小果樹類がわが国へ導入された当初から、それらを積極的に教育材料として用いてきた。同時にその種類・品種の保護育成を行ない、現在では一部地域への普及についても役割を果たしている。

本研究では、遺伝資源としての小果樹類の保護・育成、ならびにわが国の食文化への普及・定着のための試みとして、その種類・品種を収集し、それらの特性調査を行ない、さらに2,3の地域における利用状況について調査する。

## 2. 材料および方法

**材料:** 材料には以下に示すツツジ科スノキ属およびバラ科キイチゴ属の小果樹類の在来種と導入種を用いる。

### 1. スノキ属 (*Vaccinium*)

導入種、ブルーベリー

1. ハイブッシュブルーベリー種、ノーザンハイブッシュ種 (*V. corymbosum*, *V. australe* 他)、サザンハイブッシュ種
2. ラビットアイブルーベリー種 (*V. ashei*)

在来種

1. クロマメノキ (*V. uliginosum*)
2. シャシャンボ (*V. bracteatum*)など

## II. キイチゴ属 (*Rubus*)

導入種

1. ラズベリー (*R. strigosus*, *R. idaeus*, *R. occidentalis*,  
*R. neglectus*)
2. ブラックベリー (*R. allegheniensis*, *R. ostrifolius*,  
*R. villosus*, *R. trivialis*)

在来種

1. カジイチゴ (*R. trifidus*)
2. クマイイチゴ (*R. crataegifolius*)
3. モミジイチゴ (*R. obsimensis*)
4. エビガライチゴ (*R. phoenicolasius*)

### 方法：

- (1) 上記の種類について、神奈川県伊勢原市および山形県寒河江市において特性調査を行なう。
- (2) 利用状況については以下の地域について調査を行なう。  
北海道 (富良野市、帯広市)、秋田県(秋田市)、山形県(寒河江市)、東京都、神奈川県(松田市、伊勢原市、津久井郡、相模原市)、山口県

### 3. 結果

- (1) 特性調査については年間を通しての調査を継続中である。神奈川県伊勢原市における知見から、各導入種の地域の気象条件に対する適応性については、種単位でなく品種ごとの検討が必要であると思われた。
- (2) 利用状況の調査については、上記の地域に今年度からの調査を依頼した。主な調査項目は、生果の市場出荷、加工利用、観光農園としての利用とする。